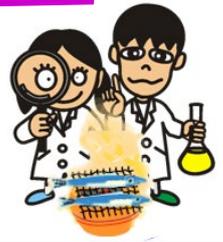


感染症に気をつけよう!

2022年【10月号】



横浜市内の感染症 流行状況

10月3日
発行

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症**	 発生	 増加	6月以降、報告が多いです。10歳未満の例も報告されています。 【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	 発生	 横ばい	梅毒などの性感染症は、報告数の比較的多い状況が続いています。 【ちらし】
新型コロナウイルス 感染症*	 大流行	 やや減少	減少傾向ですが、小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。 【'22.9号】

国立感染症研究所*

厚生労働省**

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

今、気をつけたい感染症 冬の感染症

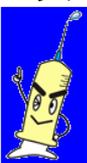
- 気温が低く乾燥している冬は、風邪、インフルエンザやノロウイルスなど、**感染症が流行しやすい**季節です。



- 感染症の種類は違っても、**基本的な予防対策は同じ**です。
- 感染(飛沫感染・接触感染)の経路を断つために、**咳エチケット****やこまめな**手洗い****をしっかりと行いましょう。
- 十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけて、免疫力を高めておくことも大事です。



- 特に今シーズンは、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の**同時流行も心配**されています。



- インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは、**同時に接種することも可能****です。ワクチン接種について、かかりつけ医に相談しましょう。
- 横浜市では、令和4年10月1日～12月31日に**高齢者インフルエンザ予防接種**を実施します。

